

経験者（他者）から主体的に学ぶ

美術教育講座・原田 義明

1. 授業の概要及び目的

本授業は、中等教育コース（美術教育専攻）の1回生及び造形芸術コースの学生を対象とした授業（必修）であり、後学期に開講されている。本年度の受講生数は16名（美術教育専攻1回生3名、3回生1名、初等教育2回生1名、3回生2名、美術教育専修4回生1名、造形芸術コース4回生7名、他学部1名）である。

本授業では、工芸に関連した造形素材（金属、ガラス等）による作品制作を行い、工芸やプロダクトデザインにおけるデザイン要素について学習し、制作を通して素材や道具に関する基本的な知識や技法を身につけることを目的としている。

授業の到達目標は以下の通りである。

〈到達目標〉

- (1) 工芸の造形素材、技法及び道具についての基本的な知識を身に付けることができる。
- (2) 与えられた課題の内容を理解し、それを作品制作に生かすことができる。
- (3) 素材の特性や技法が各自の制作意図に反映され、作品化できる。

2. 授業内容

本授業は1回生対象の授業である。受講生の多くが工芸に関する知識や制作歴が少ないこと念頭に置き、これまで課題内容や授業進度を考慮してきた。ここ数年、上回生で重複履修（2～3回）する学生が多く、今年度も半数以上の学生がこれに該当する。このことを踏まえながら、全体指導と個人指導を繰り返しながら授業を進め、素材の特性を十分に生かした作品制作を目指した。

3. 経験者（他者）から主体的に学ぶ

上述したように、この授業の特徴は多くの重複履修の学生がいる事である。これらの学生は作品制作において、一定程度の経験と知識・技能を有しており、工芸未経験者と経験者が混在した授業ということである。今回は、この授業の特徴を活用して未経験者が経験者（他者）から主体的に学ぶ方途を意識した授

業展開を試みた。具体的には、各課題最終日に作品鑑賞会を実施し、授業の習熟度を測る目的でワークシートを作成させ、その後の合評会で、自己作品と関連付けながら、他者の良いと思う作品を2点挙げさせて、その理由を述べさせた。また、授業の中でも経験者の作品へのアプローチに仕方を積極的に取り上げて、未経験者の知識や技法の拡がりや深化を促した。

4. 授業改善のためのアンケート

授業最終日にアンケート調査を実施した。アンケート冒頭でディプロマ・ポリシー（以下DP）に関する項目を設定し、①向上していない②どちらかといえば向上していない③どちらかといえば向上した④向上したとして4段階評価を行った。

DP以外の質問項目に関しては、問9までと問12は5段階評価で行い、①全くそう思わない（良くない）②あまりそう思わない（あまり良くない）③どちらとも言えない（普通）④ややそう思う（良い）⑤強くそう思う（非常に良い）とした。なお、問10の回答については、①はい⑤いいえで答える事とし、問11は「はい」のみ選択回答、問13～15は記述式とした。回答者14名

5. アンケート結果

【教育学部DPに関する質問事項】

この授業では、シラバスの重点項目をDP1にしていることから、今回はDP1のみ抽出する。

DP1. 教科に関する確かな知識と、得意とする分野の専門知識を修得している。（知識・理解）

③4名 ④10名

【授業に関する質問】

1. 授業テーマ・目標は授業展開の中で明確でしたか。

③1名 ④3名 ⑤10名

2. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。

④3名 ⑤11名

3. この授業で、あなたのこの分野への興味・関心は向上しましたか。

④1名 ⑤13名

【授業方法に関する質問】

4. 担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。

④1名 ⑤13名

5. 担当教員の熱意。工夫は感じられましたか。

④1名 ⑤13名

6. 制作中のアドバイスの内容は適切でしたか。

⑤14名

7. この授業では、教材や資料が工夫されていましたか。

⑤14名

8. この授業の中で質問や意見発表の機会が与えられ、教員はそれに適切に対応していましたか。

⑤14名

【受講生自身に関する質問】

9. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

④2名 ⑤12名

10. あなたはこの授業に関する授業時間外学習を行いましたか。

①12名 ⑤2名

11. 10. で「はい」と答えた人のみ、お答えください。時間外学習の具体的な内容について以下から選んでください。(複数回答可)

①制作12名 ②資料収集6名 ③展覧会等での作品鑑賞2名

【授業全体に関する質問】

12. この授業は、制作の過程で思考が深められ、意図した表現が達成できるような課題設定と授業展開でしたか。

④1名 ⑤13名

13. この授業全体の制作を通して、特に印象に残っている(素材・技法・表現)等について、その理由も含めて記述してください。以下、13～15は、誤字・脱字を除き主なものを原文のまま転記。

○銀とすずについて、はじめは素材の柔らかさや融点の違いといった性質についてしか気づけなかったが、作品を作った後は、それらの持つ雰囲気の違いについても気づくことができた。

○重複履修しても毎回得るものがあるし、他

の人の作品を見てなるほどと思える。

○金属とガラスという似て非なるもの、を特性が制作を通して感じた。全て面白かったです。

○鑄金を立体作品にしている人がいて、新しい発見があった。

○様々な素材で加工方法を色々試せてすごく勉強になりました。身近な素材でできたのも良かったです。

○鑄金技法。レリーフ以外の考え方ができると知ったので。

○金属の特性と、それを生かした作品をつくること。いろいろな工夫があることが分かって視野が広がった。

○何回も受講することによって理解の深まりや次への目標ができ良かった。

○色々な素材に触れ、比較しながら制作できる魅力。

○鑄造を中学生の時に取り組んだことがあったのですが、その時とはまるで違う作り方で砂を固めて型を作る方法は初めて知り、とても新鮮に取り組めたので、鑄造技法が印象深かった。

○ガラスと金属2つの素材を扱ってみて、それぞれの特徴や違いを感じる事が出来て良かった。また、合評の時間も十分にあり、他の学生の自分の作品に対する意見や作品に込めた思いを聞くことができ、より深い学習ができたと思う。

14. この授業で良くなかった点、改善すべき点を記述して下さい。

○天井のコンセントを使い終わったらなおすようにした方がよいかと思います。

15. 実習室の状態や学生数など受講環境について意見があれば記述して下さい。

○学生数は丁度良かったと思います。

○作品が授業時間内に仕上がらなかった時に、その他の時間でも自由に実習室を使わせてもらって助かった。

6. まとめ

今回は本授業の履修者構成の特徴を活かし、「経験者(他者)から主体的に学ぶ」ことを意識した授業展開を試みた。アンケートの自由記述(授業者下線)からは、未経験者だけでなく経験者からも、他者に刺激を受けて、思考や知識が深まった旨の記述が見られ、今年度の取組内容は概ね達成できたと考える。今後も授業方法・内容の改善に努めたい。